



2025年2月19日付1面

2024年産の鹿児島県の荒茶生産量は、前年比3%増の2万7千t(シエア37%)で、1959年に都道府県別統計を開始して以来、初めて静岡県(2万5800t)を抜き全国1位となった。農林水産省が18日公表した。一番茶は静岡に1550tの差をつけられたものの、堅調なドリンク原料需要に支えられ、二番茶後半から盛り返した。

鹿児島県によると、一番茶需要が強まり、鹿児島が二番茶は静岡が1万t(前年比一番茶後半から生産量を伸ばす10%増)へ増産したのに対し、鹿児島は前年並みの8450tだった。茶葉並みの7790t、荒茶加工低減を受けて静岡が二番茶工前の生葉収穫量は静岡より1万1400t多い13万t(同3%増)だった。ペットボトル茶などのドリンク原料900t(同3%増)だった。

鹿児島県によると、一番茶需要が強まり、鹿児島が二番茶は静岡が1万t(前年比一番茶後半から生産量を伸ばす10%増)へ増産したのに対し、鹿児島は前年並みの8450tだった。茶葉並みの7790t、荒茶加工低減を受けて静岡が二番茶工前の生葉収穫量は静岡より1万1400t多い13万t(同3%増)だった。ペットボトル茶などのドリンク原料900t(同3%増)だった。

24年 2.7万t、抜く

鹿児島産荒茶初の首位

3年産では鹿児島との差が過去最少の1100tに縮まっていた。鹿児島は荒茶と生葉を合わせた茶産出額では、19年に一度だけ日本一になったものの、生産量では静岡の後塵を拝してきた。

塩田康一知事は「生産者や茶業関係者の努力による快挙。多様なニーズに対応した生産、国内外の販路開拓などを引き続き支援していく」とコメントを出した。

【問1】 見出しの空欄に当てはまる県を次のア～エから一つ選びましょう。

- ア 三重
- イ 宮崎
- ウ 福岡
- エ 静岡

【問2】 鹿児島県が二番茶後半から生産量を伸ばしたのはなぜですか。

(ペットボトル茶などのドリンク原料需要が強まったから)

【問3】 鹿児島県の荒茶の生産は、問1の県と比べてどのような特徴がありますか。グラフから読み取れることを「摘採面積」「荒茶生産量」を答えましょう。

(問1の県に比べ、摘採面積は少ない、荒茶生産量は多い。)

【問4】 塩田康一知事は、鹿児島県の荒茶生産をどのように支援するとコメントしていますか。二つ答えましょう。

- (多様なニーズに対応した生産)
- (国内外の販路開拓)

【調べてみよう】 鹿児島県の茶について、生産の工夫や加工・販売の工夫など、茶業関係者がどのように努力しているか調べてみよう。



* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

荒茶(あら・ちゃ) = 摘んだ葉を蒸してもみ、乾燥させたままの茶
 抜(ぬ)き 堅調(けん・ちょう) = 相場が上昇傾向にあること
 需要(じゅ・よう) 伸(の)ばした 摘採(てき・さい) 収穫量(しゅう・かくりょう) 高齢化(こう・れい・か) 傾向(けい・こう)
 禍(か) = わざわい、災厄 後塵(こう・じん)を拝(はい)す = 人に先んじられる。後れをとること
 販路開拓(はん・ろ・かい・たく) 支援(し・えん)